

2004 年冬 玉川高島屋 S・C 「ホワイトエンジェルプロジェクト」結果報告

世界中の子どもたちに笑顔が広がる平和なクリスマスを、という願いを込めて、2002 年より玉川高島屋 S・C で行われてきたクリスマスチャリティイベントの第三弾。「子供地球基金」を通じて届けられる、世界の子どもたちへのクリスマスメッセージをツリーに飾ったり、募金箱の設置、少年少女合唱団によるコンサートなど、心温かくしてくれる多彩なイベントが勢揃いしました。

玉川高島屋 S・C より

「昨年末に実施いたしました「ホワイトエンジェルプロジェクト」に皆様から寄せられた寄付金の合計は 777,081 円となりました。この金額に玉川高島屋 S・C が 1,000,000 円を加えて、計 1,777,081 円を子供地球基金が共同運営するカンボジアのエイズ施設に寄付し、子どもたちの心のケアのための文具や遊具に使わせて頂きます。皆様のあたたかい御協力、ありがとうございました。



子どものアートが、3 次元のカーペットに！「子供地球基金チャリティカーペット」

世界中の子どもたちの描いた、たった一枚の絵。その絵をデザインにして、オリジナルのチャリティカーペットが製作販売されることになりました。カーペットメーカー「ワイズトレーディング」のご協力により実現。100 色もある多彩な糸を使用し、熟練の職人がすべて手作業で原画そっくりに仕上げていきます。実用として、あるいはお部屋のインテリアに、絵画とは違った楽しみ方ができるかもしれません。購入方法などは別途、皆さまにご案内させていただきますので楽しみに！

- サイズ：70 センチ×50 センチ ■販売価格：未定 ※カーペット価格のうち、一部がチャリティとして子供地球基金へ寄付されます。
- 販売元：ワイズトレーディング（2005 年 4 月以降予定） ※注文に関するお問い合わせ：ワイズトレーディング（Tel. 0424-81-8471）

各地でチャリティイベント開催

子供地球基金をサポートする目的のチャリティ企画が各地で開催されました。一部をご紹介します。

■ 1 月 30 日 徳江陽子ピアノコンサート in 世田谷

国内外で活躍中のピアニスト徳江陽子さんのコンサートが、世田谷『沼田絵本美術館』で開催されました。世界中の絵本の原画が展示されるミュージアムで、ベートーベンやショパンなどの名曲を披露。この日のチケット代金の一部をご寄付いただきました。

■ 1 月 29 日 オーストリア・バレエ・カンパニー東京公演 in 葛西

オーストリア・バレエ・カンパニー（ABC）は、1995 年クリスティアン・マルティヌを芸術監督として発足。古典バレエやコンテンポラリーの作品を上演、幅広く活動するカンパニーです。この日、インド洋大津波チャリティスタジオパフォーマンスを行い、会場で集められた募金を子供地球基金へ寄付していただきました。

Charity Wine Party チャリティワインパーティー

毎月第 1 木曜開催の「チャリティワインパーティ」。2 月のパーティーは、昨年末のインド洋大津波をうけ、大津波の被災地の子どもたちへのチャリティを目的にしました。インドネシア、マレーシア、スリランカなどスマトラ地域の子どもの絵画をキッズ・アース・ギャラリーに展示に加えて、写真家のチャールズ・グラバー氏の写真展も併催。世界中の子どもたちの懸命に生きる子どもたちの、かわいらしくも力強い姿をご覧いただき、一部の作品は当日チャリティオークションを行い、皆さまに落札していただきました。今回のチャリティ・ワインパーティー Vol.4 では、70 名近くのお客様がお越しください、皆さまのご参加費、募金、写真作品のオークションを合わせて 205,050 円の収益となりましたことをご報告いたします。皆さまのご協力でスタッフ一同、心より感謝申し上げます。

〈ご協賛〉

(株)ルミエール（ワイン）
(株)キータ・ユニフリューティー・ジャパン（バナナ・パイナップル・グレープフルーツ）
有限会社アグリクリエイト（野菜各種・イチゴ・キウイ）

〈ワインパーティー詳細〉

開催日：毎月第 1 木曜日 18：30 ～ 20：30
会場：キッズアースギャラリー（東京都渋谷区恵比寿 3-29-9）
※お申込みは子供地球基金事務局まで（Tel. 03-5449-8161 又は E-mail）

◆年間スケジュール

4 月	4/7（木）	7 月	7/7（木）	10 月	10/6（木）
5 月	お休み	8 月	8/4（木）	11 月	11/3（木）
6 月	6/2（木）	9 月	9/1（木）	12 月	12/1（木）





3月初め、クロアチアの第1号キッズ・アース・ホームは、日本からスタッフ2名も参加し、2つのワークショップを行いました。

ワークショップ1 チャリティクリスマスカード制作

このホームのあるトブスコは、冬は-20℃にまで冷え込みます。今回子どもたちは、そんな厳しい冬の風景を描きました。寒い冬の風景やかわいい雪だるまを青や白などの色で、あたたかい家や楽しいクリスマスは赤や黄、オレンジなどで丁寧に描きました。これらの絵は、スマイルハートクラブ*により今年のクリスマスカードにデザインされ、その売上げは、インド大津波の被災者の支援活動等に使われます。

* 三井住友海上火災保険(株) 社員による任意団体



ワークショップ2 インド洋大津波被災者へ...

日本の子どもたちが描いた約1m×3mの大きな作品に、クロアチアの子どもたちがさらに元気な絵を重ね、コラボレーション。絵の他に、“Be Happy” “Children for Children”などの言葉も並びました。戦争中に壊された建物が、今なお多く残る町に暮らすクロアチアの子どもたちは、このワークショップに参加することで、大切な人や家を失う悲しみや恐怖を、津波被災者と共有しているようにも見えました。このアートは、子供地球基金を通じて被災者へ届けられる予定です。



Messages from Croatia

★マルティナ ラドマン 11歳 女
みんなと友だちになりたいです。そして困った時はいつでも私たちがいることを信じてほしい。

★クレッシミル ホルバティン 男
津波でたくさんの家族が離れ離れになったと聞いて、本当に胸が痛いです。力強く生きてほしい。でも、たまには遊びも大切だよ！いつか日本の子どもたちと一緒にサッカーをしたいな。



〈ホームの今とこれから〉

第1号キッズ・アース・ホームは、1996年、内戦直後に、親や家を失うなどのトラウマを抱えた子どもたちの心のケアを目的として設置。現地NGOのSuncokret(スンツォクレット)の協力のもと、心理士やソーシャルワーカー、芸術家で構成されたスタッフによるケアプログラムを実施している。ホームの建物設置にあたっては、クロアチア中部のトブスコ市の全面協力により、市所有の一軒屋(当時)を無償で借り受ける形でオープンした。現況ホームに通う子どもたちのほとんどは、実際に戦争体験はしていない。しかし、いまだクロアチア民族至上主義やモスLEM人への偏見などが残る閉鎖的な地域社会、戦時中のショックから未だ立ち直れず、ドラッグやアルコールに溺れる親たち、市の70パーセント以上が失業中である厳しい経済状態などの要素が、子どもたちがのびのびと生きる環境から遠ざけている。10年間の活動は確実に実を結んでいる。現在のホームでは、ワークショップを通じて子どもたちの人種差別意識を取り除き、平和な国際社会への視点を育みながら、心のトラウマを無くしていくことである。今後、現在位置するホームからの移転も検討中である。



世界の子どもたちから新潟の子どもたちへ

新潟中越地震から5ヶ月が経ちました。1月28日、日本とアメリカの子どもたちから寄せられた励ましの絵とお手紙を届けるために、昨年10月、キッズ・アース・カーで緊急支援に訪れた小千谷市立吉谷小学校の子どもたちのもとを、再び訪れました。子どもたちは、かわいいスマイルの絵やカラフルなポスターに大喜び。海の向こうからやってきた、英語と日本語で書かれたメッセージにも興味深々の様子でした。夜寝る時に電気を消せない子、今も続く小さな余震に非常に敏感な子もいて、地震の傷跡はまだ消えていません。世界中の子どもたちからの想いのつまった励ましの絵やメッセージは、新潟の子どもたちの心を確かに勇気づけた様に思います。“KIDS HELPING KIDS” 子どもたちが元氣を取り戻すためには、子どもたちの力が一番、私たちはそのことを目の当たりにした気がします。

スタッフが見た校内の様子

地震直後にテントが張られていた校庭には、仮設住宅が建ち、そこから通う児童もいます。ライフラインが復旧したとはいえ、トイレの水圧は弱く、給食室以外のガスは使えない状態です。そして、校舎内には今もビニールシートとガムテープで覆われただけの天井や壁、壊れたままの貯水タンクもあり、完全な復興には、もう少し時間がかかる様子でした。



■小児病棟ワークショップ

1月 慈恵医大付属病院

みなさんのたまごはどんな形でしょう？
1月、恒例の慈恵医大附属病院小児病棟ワークショップでは、とっても楽しいたまごがたくさん生まれました。今回のゲストアーティストは菊池歩さん、テーマは「こころのたまご～自分のたまごを生んでみよう！」です。発砲スチロールのたまごに、ボタンや、ビーズ、和紙、レース、お花…好きなものを選んでどんどん付けていくと、オリジナルたまごの完成です！夢中になって制作を楽しむ姿からは、子どもたちのエネルギーがあふれていました！



■クリスマスプレゼント報告

12月 クリスマスプレゼントプロジェクト

昨年12月、キッズ・アース・カーはたくさんのプレゼントを積んで、5つの施設にクリスマスプレゼントを届けに行きました。そのうち、クリスマス会にあわせた愛育養護学校では、ボランティアもスタッフもサンタ帽を被って登場し、一人一人にプレゼントを手渡しました。外は寒かったけれど、子どもたちの笑顔で心が温かくなった、大成功のクリスマスプレゼントプロジェクトでした。プレゼントをご提供下さった各企業の皆様、お手伝いして下さいボランティアの皆様に、心よりお礼申し上げます。



〈ご提供頂いた各企業〉(五十音順)
・タイジャパン・エルエルシー (ぬいぐるみ)
・株式会社トンボ鉛筆 (鉛筆、色鉛筆他)
・株式会社バンダイ
(絵本『くまのがっこう』グッズ他)

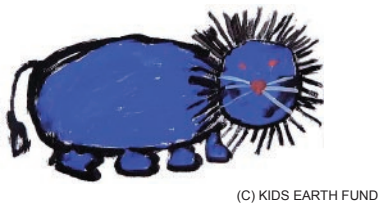
ご協力ありがとうございました



■ワークショップレポート

新潟のお友だちをはげまそう！

スタッフの新潟被災地訪問にあわせて、キッズ・アース・ギャラリーでは子どもたちによる「励ましの絵」ワークショップが行われました。被災した子どもたちにどんな絵を届けたいかな？みんなで相談してから、みんなで暖かい色を使ってたくさんの「スマイル」の絵を描きました。この絵が届いた新潟の子どもたちにも、こんなスマイルが広がったでしょうか...



(C) KIDS EARTH FUND

NEW MEMBERS

新規にご入会いただいた方々です

(個人会員) Andrew Olea 様 / 下門 恭世 様 / 深澤 弘美 様 / 水野 恵 様 / 向 公恵 様 / 柳澤 正樹 様

(団体会員) ママリブ

(里 親) 外山 照子 様 / 中井 史 様 / 広光 由美子 様

※ベトナムのキッズ・アース・ホーム(ストリートチルドレンの学校)へ通う子どもたちの里親の方々です。

(2004年12月1日～2005年2月28日現在・五十音順)



コラム

DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol. 9

株式会社都市デザインシステム 代表取締役社長 / 子供地球基金 顧問委員
梶原 文生

私が起業することになったきっかけのひとつに「恵まれない環境を強いられている子どもたちのために、何かできることはないか？」という想いがありました。個人として行動できることには限りがありますが、企業であればできることの可能性が広がります。また子供地球基金さんのご協力が得られたことで、その可能性がさらに広がることとなりました。

13年前に私一人で起業したベンチャー企業が今では社員100人を超える規模となりましたが、利益の一部を使って子どもたちのために役立てるには何をすべきかを考える際に意識したことは、社員一人一人が社会貢献に参加していることを実感できるよう、結果として目に見えるカタチとすることでした。また、これまで住まいづくりに携わった仕事をしてきたこともあり、2002年には子供地球基金さんに協力させていただき、ベトナムのホーチミンにキッズ・アース・ホームを建設する機会に恵まれました。今振り返ってみても子供地球基金さんのご協力なしには、海外の見知らぬ土地でキッズ・アース・ホームの建設に携わった経験はできなかったと実感しており、その出会いには心から感謝しています。現在キッズ・アース・ホームには約30人の子どもたちが生活し、昼間のクラスルームには約100人の地域の子どもたちが集まってきました。

これまで多くの社員がキッズ・アース・ホームを訪れましたが、実際にそこで暮らす子どもたちとのふれあいを通し、自分たちが働いて利益を得ることにより、子どもたちのために役に立つことができると実感することで、モチベーションアップへもつながっています。今後は住まいに留まらず、子どもたちにとって将来的にも役立つさまざまなことを学習する機会や、あるいは子どもたちが成長し、独立した後の働く場なども提供できるようなしなかけを組み立てていきたいと考えています。